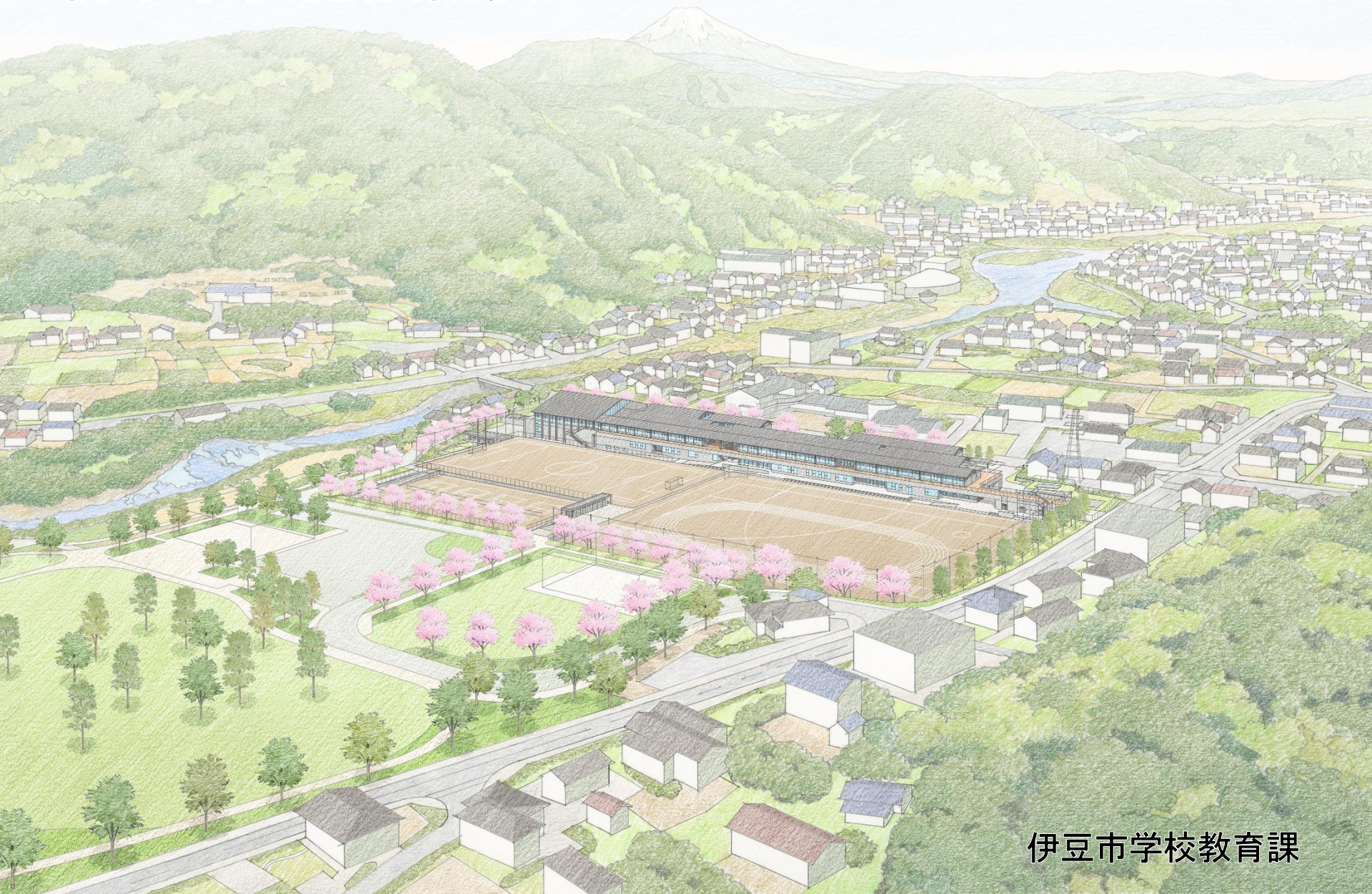


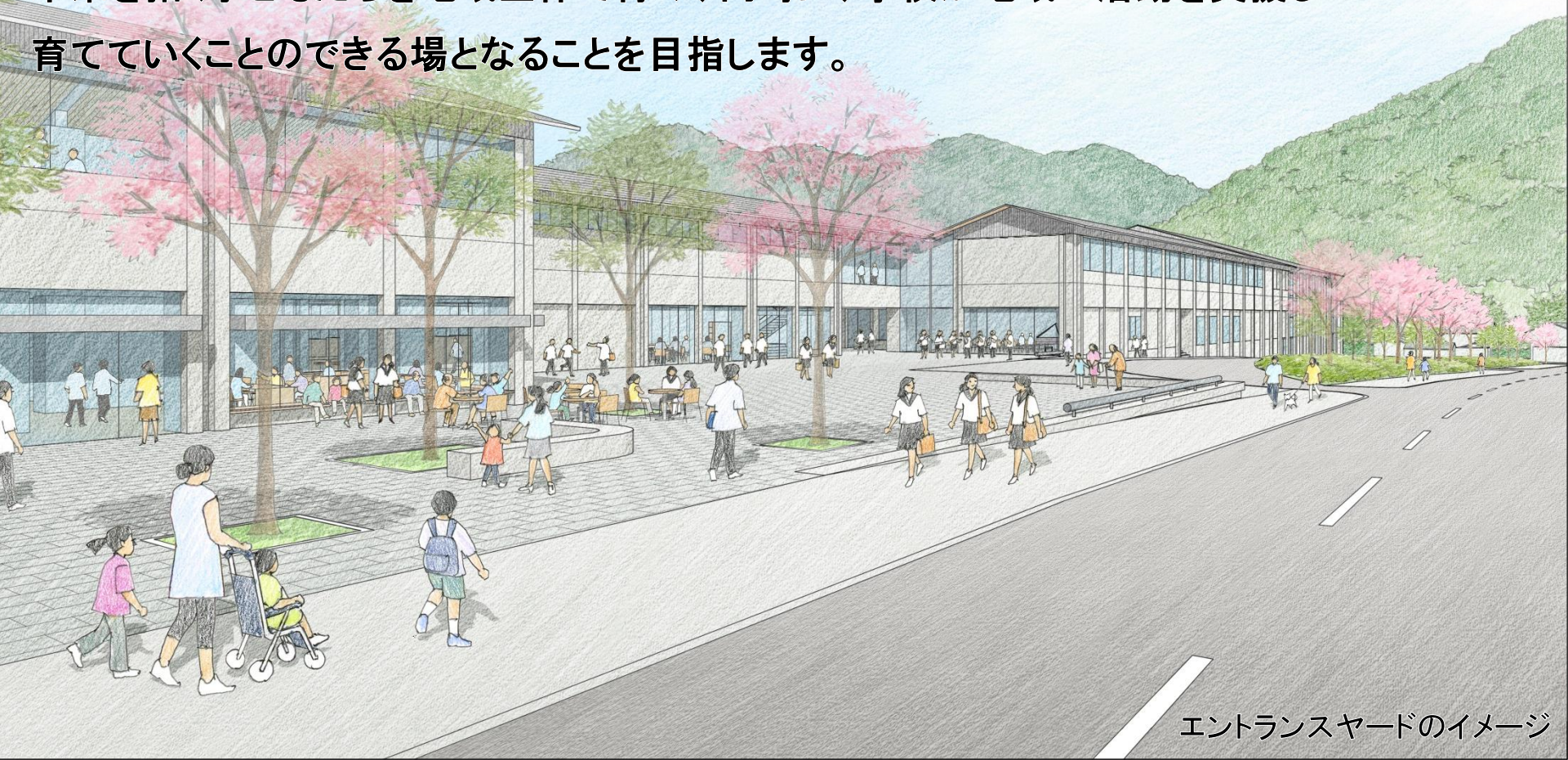
新中学校施設概要



設計における基本コンセプト

- ・歴史ある3地域が集まり、新しい価値を育てる出会いと発見の場をつくります。
- ・地域全体で学校を育て、学校が地域全体を育てる場となるよう、だれもが通いやすい環境整備を行います。
- ・たおやかな狩野川沿いの風景とともにある、親しみやすく快適な建築とします。

未来を拓く子どもたちを地域全体で育み、同時に、学校が地域の活動を支援し育てていくことのできる場となることを目指します。



(仮称)伊豆市立新中学校 概要

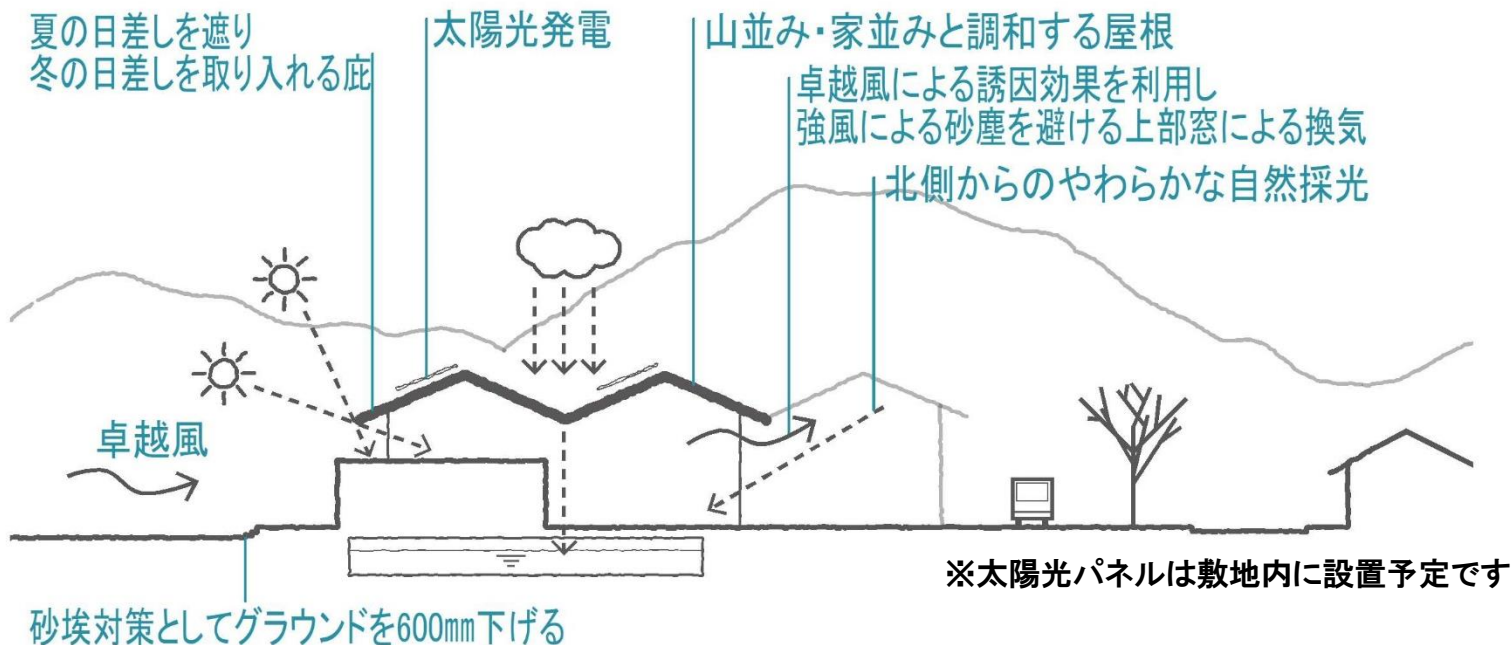
- 敷地面積:37,816.52m²
- 建築面積:6,642.02m²
- 敷地構成:校舎棟(屋内運動場、部室棟1を含む)
部室棟2 / 駐輪場(東西に各1)
グラウンド / サッカーグラウンド
テニスコート
- 建物構造:校舎棟→2階建 / 鉄筋コンクリート造
(一部鉄骨造)
部室棟2→1階建 / 鉄筋コンクリート造
駐輪場1(東側)→1階建 / 鉄骨造
駐輪場2(西側)→1階建 / 鉄筋コンクリート造
- 開校時期:令和7年4月(予定)

立地・構造

～伊豆のおだやかな気候を取り入れた、やわらかな光と風にあふれる空間～

・自然豊かな敷地環境のメリットを最大限に活かせる南向き2階建の建築物とし、自然の光が校舎内にいきわたる計画としています。屋外、屋内において気流のシミュレーションを行い、砂埃対策を行いつつも効果的に自然の風を取り込む計画を行っています。

・建物の高断熱化や日射遮へい等による建物の基本的性能向上、また自然採光や太陽光発電等による自然エネルギーの有効活用を行い、一次エネルギーの消費量を従来型の建物より削減します。



諸室配置計画

～学びの質を高める学校の「場」の変化への対応～

・2階の普通教室、トイレ、更衣室等の生活空間を「学年ユニット」として学年ごとにまとめて配置し、学年・学級のまとまりを重視。また学年ユニットの間には、多目的スペース「コモンズ」を設け、学年全体での活動などに対応します。

・学校の中心に「図書メディアセンター」を配置。今までの図書室やパソコン室、多目的教室を1つにしたような広く開放的なスペースで、生徒の様々な「学びのカタチ」に対応します。

・特別支援学級には、教室や多目的室の他に、クールダウンを目的とした専用スペースを設け、生徒の様々な状況に対応します。



ユニバーサルデザイン・木材利用

・わかりやすい空間の構成とし、多様な利用者に配慮した案内表示や水まわりの配置など、ユニバーサルデザインの理念に基づき、生徒から地域の方々まで、老若男女だれでも「わかりやすい」「使いやすい」「安全な」計画とします。

・高低差のある部分へのスロープやエレベーターの設置、駐車場やトイレの計画など、バリアフリーを徹底します。

・天井などに伊豆市産の木材(スギ・ヒノキ)を積極的に活用し、地場産の木材に包まれた、あたたかな空間を目指します。



2階 普通教室

1階 ラーニングcommons

安全性・災害対応

～地域の防災拠点としての役割～

- ・地域防災拠点として、地震に強く、丈夫で耐久性の高い構造とします。
- ・校舎及び屋内運動場の床は想定し得る最大規模の洪水でも浸水しない高さに計画しています。
- ・屋内運動場(アリーナ)は避難所として利用できるよう、電力などのライフラインが止まった場合でも機能維持できるように計画しています。
- ・普通教室、特別支援学級を2階に配置することにより、避難生活を継続しながら授業が再開しやすい計画とします。



フレキシブルに富んだ使い勝手

～末長く使い続けられる学校を目指して～

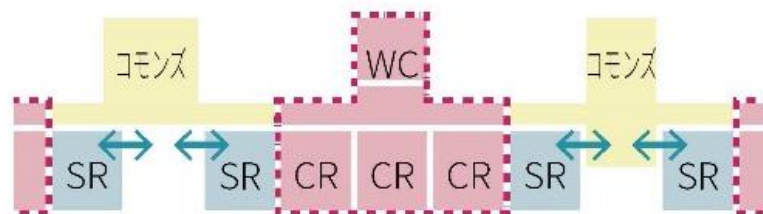
- ・社会や教育の変化に柔軟な対応ができる、持続性をもった構造計画、設備計画とします。
- ・子どもの数の変化により将来学級数が一時的に減少したときには、学年のまとまりを崩さずに空き教室を多用途に使用しやすい教室配置とします。
- ・メンテナンス性、耐久性、更新性に配慮し、建物を継続的に使い続けるための負担を軽減します。

学級数の変動に対応可能な教室配置

CASE1：普通教室まわりを充実



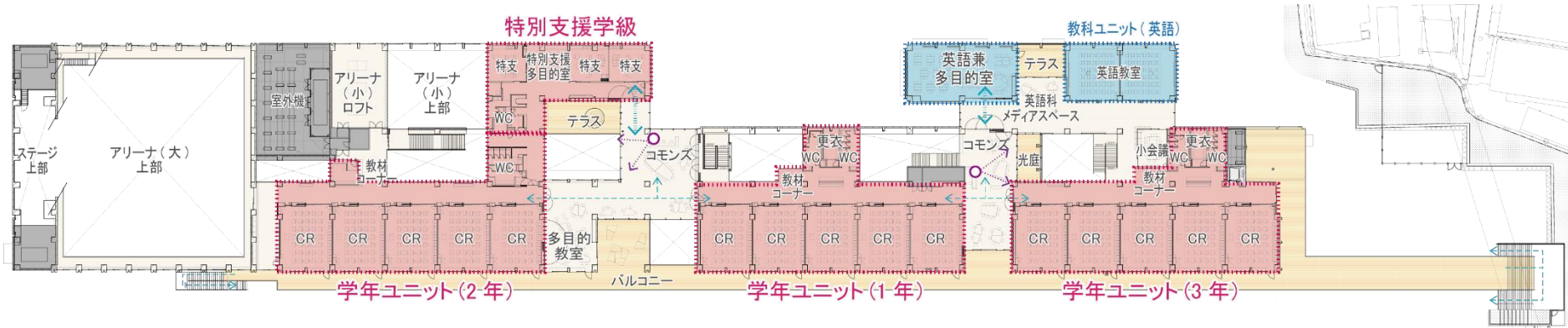
CASE2：コモンズまわりを教科教室に



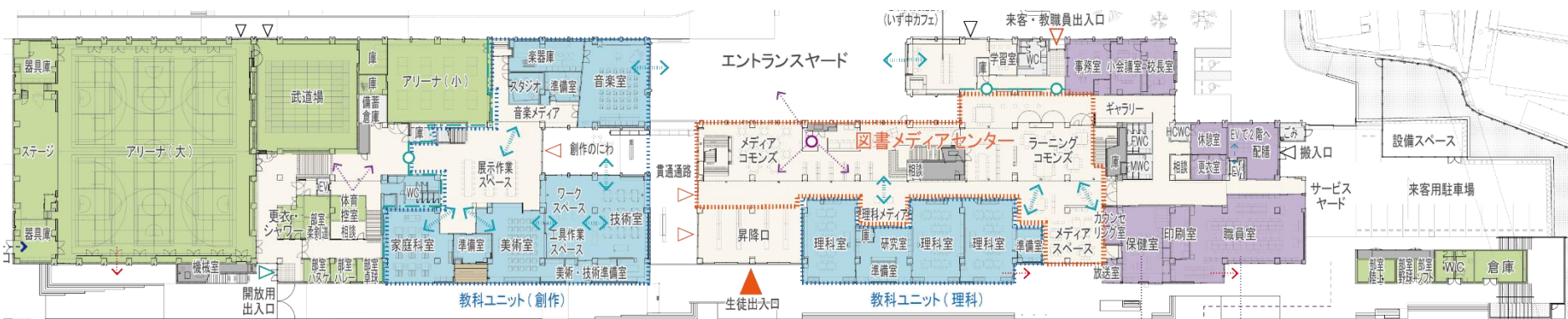
CR: 普通教室 LS: ロッカースペース SR: 教科教室

平面計画

※各室については現在の計画であり、将来的な用途変更の可能性もあります



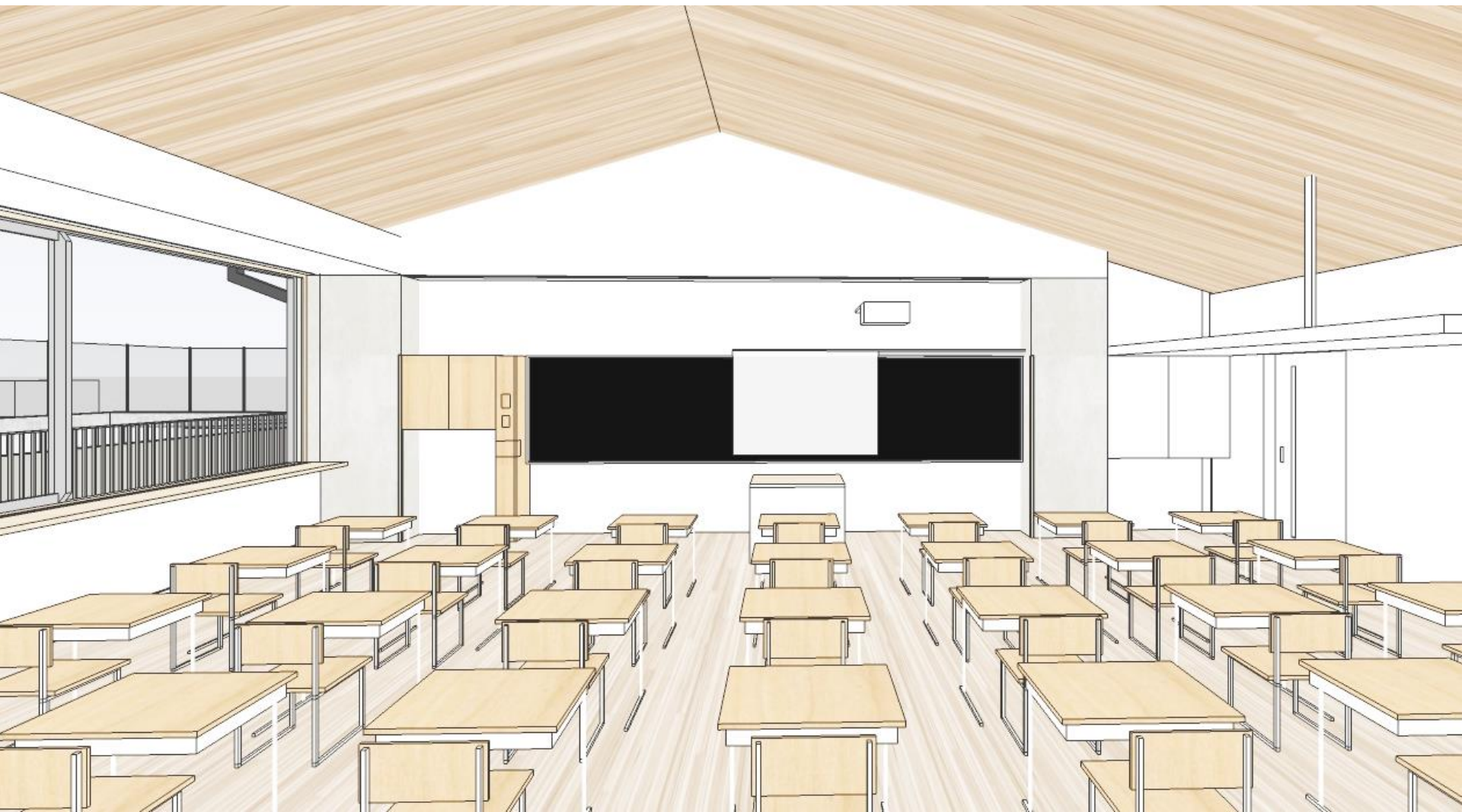
2階平面図



1階平面図



1階 メディアコモンズ





2階 特別支援学級・多目的室